

令和7年度 第1回 丸塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年5月9日（金） 13時30分から15時40分まで
- 2 開催場所 丸塚中学校 多目的ルーム
- 3 出席委員 稲垣 邦圓、尾上 弘、名倉 善郎、酒井 里江子、
鈴木 厚子、湯山 紀美代、青木 優衣、劉 志奈、
田嶋 節子（学校支援コーディネーター）
- 4 欠席委員 なし
- 5 学校 渡瀬 益章（校長）、山下 孝二（教頭）、平野 大輔（CS担当教諭）
石津谷 訓子（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 石津谷 訓子
- 8 会長の選出及び副会長の指名

司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、昨年に引き続き稲垣委員を推挙する旨の提案があり、全員異議なくこれを承認した。またその後、会長に選任された稲垣委員から、尾上委員を副会長に指名する旨の報告があった。

9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、昨年に引き続き尾上副会長を推挙し、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 令和7年度学校運営基本方針について
- (2) 学校いじめ防止基本方針に関わる取組について
- (3) 学校運営協議会の自己目標について
- (4) 夢育やらまいか事業の意見書について

11 会議記録

司会の教頭山下から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 令和7年度学校運営基本方針について

議長の指示により、校長渡瀬から、今年度の学校運営方針について説明があり、委

員からは、以下の発言があった。

- ・ 1年生の授業参観で、先生と生徒の会話のキャッチボールが良かった。間違えたらどうしようと怯むことなくはっきりと意見が言えて、先生もしっかりと受け止めていた。(酒井委員)
- ・ 3年生の廊下の掲示板では受験の意識が高まっていたが、授業参観では柔らかい雰囲気で驚いた。先生方が対話を意識して安心感を作り、より深める授業をしてくれたら嬉しい。(尾上委員)
- ・ 全学年を通して、リラックスして和やかな雰囲気だった。「対話」というフレーズが飛び交っていて、生徒も積極的に発言していた。(田嶋委員)
- ・ 前を向いて先生の話を一方向的に聞いていた時代とは違い、4人ずつグループになって授業することで対話が生まれ、素晴らしいと思った。(名倉委員)
- ・ 2年間見てきた中で、生徒が安心していて、落ち着いたいい雰囲気に変わったと感じた。(湯山委員)
 - 授業だと、正解を求めてしまうので議論になりがちだが、対話は否定されないことが土台となっているので、授業に生かせるように教員も引き続き研修して行こうと思う。(渡瀬校長)
- ・ 答えがはっきりしている問題では、分かる子しか発言できないが、難しい問題や、複数答えがある問題では、今まで発言しなかった子が発言し出すことがある。先生方が研究を進めると、生徒たちが前のめりの話合いをしてくれるのではと思い、今後がとても楽しみだ。(尾上委員)
- ・ 以前は挙手しないと発言できなかったが、先生がみんなに「どう思う？」と質問を投げ掛けている。生徒が自分のタイミングで発言し、他の生徒から共感を得られたりして、それが自信に繋がっていると思う。(劉委員)
- ・ 授業参観をしていて、生徒たちから「楽しい」という声を聞いたのは初めてだった。(田嶋委員)
- ・ どの社会科の授業も楽しかった。クイズ形式の授業や、黒板の使い方が工夫されていて、生徒に考えさせる授業になっていた。(劉委員)
- ・ 先生と生徒の関係性も変わったように思う。生徒目線の先生も増えて、生徒が授業に意欲的に参加していた。生徒が違った答えを出した時に、先生が「そういう考えもあるんだね。」と受け止めてくれることも大切だと思う。(青木委員)
 - 第4次浜松市教育総合計画の『目指す教職員の姿』に、「こどもの自分らしさを受け止める教職員」とあり、生徒の発言や行動に対して、その子の自分らしさを見つけ、認め合うような資質能力が求められてくるので、全教職員が意識していかなければならない。(渡瀬校長)
- ・ どの先生も、デジタル教材を使って授業準備もしっかりできているのは、生徒が落ち着いているからだと思う。以前は授業妨害や問題行動を起こすような生徒はし字対応等していたが、今はないのか。(鈴木委員)
 - 授業をボイコットしたり、暴れたりはないが、何かあった時のために空き時間

の先生はL字にいるようにはしている。また、教室に入りにくい生徒は、校内まなびの教室などで対応している。まなびの教室は、異学年交流で、全体での授業もあるし、パーテーションで仕切って、オンラインで個別に授業を受けている子もいる。

(渡瀬校長)

- ・ 地域や家庭の環境も良くなり、学校も落ち着いていて授業も和やかだった。その中でも、先生はデジタル教材を駆使して、学びが鋭く、大変嬉しく思う。非行が多かった時は、生徒と目があっても逸らしたりするが、今日は目を合わせて挨拶をしてくれたりした。(稲垣委員)
- ・ 先生方も勉強して教師としての力もつけて、生徒たちが自己肯定感を高めていくてくれたら良いと思う。(尾上委員)

以上の協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 学校いじめ防止基本方針に関わる取組について

議長の指示により、平野から、いじめ防止基本方針に関わる取組について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 親も、子供の訴えにどこまで踏み込んで良いものか、迷う。また、SNSでのやり取りで、表現の仕方が人によってそれぞれで、何気ない文章からギクシャクすることもある。(青木委員)
- ・ 中学生は全員スマホを持っていて、生徒同士でやり取りしているのか。(稲垣委員)
- ・ 家庭の方針もあるので、全員ではないと思う。それによって、連絡が取りにくいから誘いにくいとか、話に入りにくいなどの線引きができてしまうことがある。(劉委員)
- ・ 対面でのコミュニケーションではなく、文字でのコミュニケーションになってしまっている。(田嶋委員)
- ・ スマホの使い方も、学校が案内を出してくれているが、親がどこまで関与しているかは、家庭によってだと思う。(劉委員)
- ・ 課金をして、莫大な請求が来ることもあるので、親子で話をするのも大切だと思う。(尾上委員)
- ・ 学校としてどのような指導をしているのか。また、昨年度丸塚中学校でSNSによるいじめはあったのか。(稲垣委員)

→ 学校にはスマホ自体を持ち込まないように指導している。昨年度、丸塚中学校で認知しているトラブルもあり、そのたびに情報モラルの指導をしている。学校側が関知していないものもあるだろうし、受けた側が自分の中で、収めているものもあると思う。実際してしまった生徒にその時の感情を聞くと、知識としては頭では理解していても、当事者としてやっている時は、このくらいは大丈夫だと思ったと答える生徒がいる。(平野)

→ いじめや悪口を言っている意識はないのだと思う。(山下教頭)

- ・ 以前SNSトラブルについての講習会に参加したが、文字だけだと誤解を招きやすいことなどを知った。生徒たちにも、講習会など学べる機会があれば良いと思う。
(酒井委員)

→ メラビアン法則と言って、対人コミュニケーションにおいて、言葉(言語情報)が7%、声のトーン(聴覚情報)が38%、表情や身振り手振りなどの視覚情報が55%の影響を与えるとされる心理学上の法則がある。実際に会って目を見て話せば、その人が好意的に話しているか分かることも、文字だけでは伝わらないこともある。(渡瀬校長)

- ・ 中学生くらいの子は、省略やスピード感を重視しているようで、メールも短文だったり、単語だけで送ったりするので、余計に誤解を招きやすいと思う。(劉委員)
- ・ 生徒のSNSの使い方や感覚が進化している代わりに、話し下手になっているようにも思うので、対話がいじめ防止に役立つと良いと思う。(尾上委員)

以上の協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(3) 学校運営協議会の自己目標について

議長の指示により、教頭山下から昨年度の自己評価と、今年度の目標について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 対話の学習を進めていただければ、生徒たちの雰囲気も柔らかくなり、先生方の勉強にもなり、いじめも減ってくるのではないかと思う。私たちは学校運営協議会の委員として、今までのように、学校からの依頼によりボランティア人材を生かし、学校支援活動を進めて行こうと思う。(尾上委員)

以上の協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(4) 夢育やらまいか事業の意見書について

議長の指示により、教頭山下から昨年度の実績報告があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ これまで通り生け花教室や、工作活動の材料費など生徒の為に、有効に使って欲しい。(尾上委員)

以上の協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

○ その他報告事項等

教頭山下から、次回運営協議会は令和7年9月12日(金)、第3回運営協議会は令和7年11月、第4回運営協議会は令和8年2月に開催予定であり、第3回、第4回の日程についてはさくら連絡網でアンケートを取る旨の報告があった。